

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S4 #14 Top 10 Japanese Songs: Kāsan no uta/Mother's Song

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 3 Romanization
- 4 English
- 5 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 7 Grammar

14

KANJI

1. 母さんの歌
2. 冬は寒い季節だからこそ、人の温かさが心に沁みるもの。今回、紹介するのは木枯らしや降り積む雪を思わせる淋しい曲です。
3. 『かあさんの歌』は1956年（昭和31年）に発表されました。作詞・作曲は窪田聡（くぼたさとし）で、彼が二十歳の時の作品です。
4. 当時の彼は、せっかく合格した大学に進学せず「文学で身を立てよう」と家出中。家族とも連絡を絶っていました。こつこつ貯めた入学金や授業料を持って出て行ってしまった息子なのに、両親は見限ることなく、無事を祈っていたそうです。
5. 兄が彼の所在を調べて故郷に知らせた以来、母親から小包が届くように。窪田の好きな食べ物や手作りの衣類など、小包いっぱい詰まった母の愛情は、どれほど彼の心に沁みただことでしょうか。1番から3番の歌詞には、それぞれ中間部分に「母親から届いた手紙の文面」とされる文句が出てきます。
6. 夢を追いかけているとは言え、級友は大学を卒業して就職し、親を安心させているというのに、自分は好き勝手な生活を送っている、そんな息子を心配してくれる両親…。彼は、感謝の念と申し訳なさが入り混じった気持ちを味わったのではないのでしょうか。
7. 短調のメロディーが歌詞の内容に合っていて、厳しい寒さの中でしみじみと故郷を思う青年の姿が想像されます。
8. さて、昔から日本の子どもたちが歌っていた「わらべ歌」には短調の曲が多いとか。『かあさんの歌』は、歌詞も曲も日本人の心の琴線に触れる歌なのです。

KANA

CONT'D OVER

1. かあさんのうた
2. ふゆはさむいきせつだからこそ、ひとのあたたかさがこころにしみるもの。こんかい、しょうかいするのはこがらしやふりつむゆきをおもわせるさびしいきよくです。
3. 『かあさんのうた』はせんきゅうひゃくごじゅうろくねん（しょうわさんじゅういちねん）にはっぴょうされました。さくし・さつきよくはくぼたさとしで、かれがにじゅっさいのときのさくひんです。
4. とうじのかれは、せっかくごうかくしただいがくにしんがくせず「ぶんがくでみをたてよう」といえでちゅう。かぞくともれんらくをたっていました。こつこつためたにゅうがくきんやじゅぎょうりょうをもってでていってしまったむすこなのに、りょうしんはみかぎることなく、ぶじをいのっていたそうです。
5. あにかれのしょざいをしらべてこきょうにしらせていらい、ははおやからこづつみがとどくように。くぼたのすきなたべものやてづくりのいるいなど、こづつみいっぱいにつまったははのあいじょうは、どれほどかれのこころにしみたことでしょうか。いちばんからさんばんのかしには、それぞれちゅうかんぶぶんに「ははおやからとどいたてがみのぶんめん」とされるもんくがでてきます。
6. ゆめをおいかけているとはいえ、きゅうゆうはだいがくをそつぎょうしてしゅうしょくし、おやをあんしんさせているというのに、じぶんはすきかってなせいかつをおくっている、そんなむすこをしんぱいしてくれるりょうしん…。かれは、かんしゃのねんともうしわけなさがいりまじったきもちをあじわったのではないのでしょうか。
7. たんちょうのメロディーがかしのないようにあっていて、きびしいさむさのなかでしみじみとこきょうをおもうせいねんのすがたがそうぞうされます。
8. さて、むかしからにほんのこどもたちがうたっていた「わらべうた」にはたんちょうのきよくがおおいとか。『かあさんのうた』は、かしもきよくもにほんじんのこころのきんせんにふれるうたなのです。

ROMANIZATION

CONT'D OVER

1. Kāsan no uta
2. Fuyu wa samui kisetsu dakara koso, hito no atatakasa ga kokoro ni shimiru mono. Konkai, shōkai suru no wa kogarashi ya furitsumu yuki o omowaseru sabishii kyoku desu.
3. "Kāsan no uta" wa sen kyūhyaku go-jū roku-nen (shōwa san-jū ichi-nen) ni happyō saremashita. Sakushi, sakkyoku wa Kubota Satoshi de, kare ga ni-jussai no toki no sakuhin desu.
4. Tōji no kare wa, sekkaku gōkaku shita daigaku ni shingaku sezu "bungaku de mi o tateyō" to ie dechū. Kazoku to mo renraku o tatte imashita. Kotsukotsu tameta nyūgakukin ya jugyōryō o motte dete itte shimatta musuko na noni, ryōshin wa mikagiru koto naku, buji o inotte ita sō desu.
5. Ani ga kare no shozai o shirabete kokyō ni shirasete irai, hahaoya kara kozutsumi ga todoku yō ni. Kubota no suki na tabemono ya tezukuri no irui nado, kozutsumi ippai ni tsumatta haha no aijō wa, dore hodo kare no kokoro ni shimita koto deshō. Ichi-ban kara san-ban no kashi ni wa, sorezore chūkanbubun ni "hahaoya kara todoita tegami no bunmen" to sareru monku ga detekimasu.
6. Yume o oikakete iru to wa ie, kyūyū wa daigaku o sotsugyō shite shūshoku shi, oya o anshinsasete iru to iu noni, jibun wa sukikatte na seikatsu o okutte iru, son'na musuko o shinpai shite kureru ryōshin.... Kare wa, kansha no nen to mōshiwakenasa ga iri majitta kimochi o ajiwatta no de wa nai deshō ka.
7. Tanchō no merodī ga kashi no naiyō ni atte ite, kibishii samusa no naka de shimijimi to kokyō o omō seinen no sugata ga sōzō saremasu.
8. Sate, mukashi kara Nihon no kodomotachi ga utatte ita "warabe uta" ni wa tanchō no kyoku ga ōi toka. "Kāsan no uta" wa, kashi mo kyoku mo Nihonjin no kokoro no kinsen ni fureru uta na no desu.

ENGLISH

1. Mother's Song

CONT'D OVER

2. For the very reason that winter is a cold season, the warmth of others pierces the heart. The song that I'll introduce this time is a lonely one, which brings to mind wintry winds and drifts of snow.
3. "Mother's Song" was released in 1956 (Showa 31). Satoshi Kubota wrote both the lyrics and the melody when he was just twenty years old.
4. At the time, Kubota had not gone on to the university to which he had already been accepted, but instead had left home, saying "I'm going to make a career for myself in literature." He had also severed all contact with his family. His parents, although their son had left home, taking with him the money they had laboriously saved up bit by bit for his university matriculation fee and tuition, apparently did not turn their backs on him but wished him well.
5. After his elder brother inquired as to his whereabouts and informed the people in his hometown, a parcel arrived from his mother. How much the parcel, stuffed full of his favorite foods, homemade clothes, and such and brimming with his mother's love, must have pierced Kubota's heart. In the middle parts of the first three verses there are phrases that are thought to be the content of the letter from his mother.
6. Parents who would still worry about a son who, never mind that he was following his dream, was living just as he pleased, even while his classmates had graduated from university and found jobs, putting their parents' minds at ease... He probably felt a mixture of gratitude and guilt.
7. The melody, which is in a minor key, and the lyrics go very well together, allowing you to imagine the figure of a young man thinking longingly of his hometown in the depths of intense cold.
8. It is said that there are many "children's songs," sung by Japanese children for hundreds of years, that are written in a minor key. "Mother's Song" is a song that in both lyrics and tune tugs at the Japanese heartstrings.

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
-------	------	--------	---------

沁みる	しみる	shimiru	to soak into, to permeate
木枯らし	こがらし	kogarashi	cold winter wind
身を立てる	みをたてる	mi o tateru	to establish oneself
こつこつ	こつこつ	kotsukotsu	steadily, laboriously, unflaggingly
絶つ	たつ	tatsu	to cut off, to sever
見限る	みかぎる	mikagiru	to abandon, to give up on
所在	しょざい	shozai	whereabouts, where something is
短調	たんちょう	tanchō	minor key
琴線に触れる	きんせんにふれる	kinsen ni fureru	to touch one's heartstrings

SAMPLE SENTENCES

<p>母の言葉は、身に沁みた。 <i>Haha no kotoba wa mi ni shimita.</i></p> <p>My mother's words went straight to my heart.</p>	<p>今年はじめての木枯らしが吹いた。 <i>Kotoshi hajimete no kogarashi ga fuita.</i></p> <p>This year's first cold winter wind blew.</p>
<p>芸術家として身を立てたいと思う。 <i>Geijutsuka to shite mi o tatetai to omō.</i></p> <p>I would like to establish myself as an artist.</p>	<p>こつこつ勉強すれば、必ず成績は上がる。 <i>Kotsukotsu benkyō sureba kanarazu seiseki wa agaru.</i></p> <p>If you stick to your studies, your grades will definitely improve.</p>
<p>親との関係を絶とうと思う。 <i>Oya to no kankei o tatō to omō.</i></p> <p>I am thinking of cutting off my relationship with my parents.</p>	<p>親に見限られてしまったようだ。 <i>Oya ni mikagirarete shimatta yō da.</i></p> <p>Apparently I was abandoned by my parents.</p>

息子の所在が10年も分からない。
Musuko no shozai ga jū-nen mo wakaranai.

I don't know where my son has been for the last ten years.

この曲は短調で書かれている。
Kono kyoku wa tanchō de kakarete iru.

This song is written in a minor key.

琴線に触れた出来事について作文を書いた。
Kinsen ni fureta dekigoto ni tsuite sakubun o kaita.

I wrote about an incident that struck a chord in my heart.

GRAMMAR

Natsuko: オーディオブログ第4シーズン第14課 「母さんの歌」

Yuichi: こんにちは ゆういちです

Natsuko: なつこです。今回取り上げる歌は？

Yuichi: 「母さんの歌」です。

Natsuko: 今回は「冬」を連想する歌、「母さんの歌」でした。

Yuichi: 前回の「秋」の歌として紹介した「赤とんぼの歌」も、さびしい歌でしたけれども、今回もさみしい歌ですねー。

Natsuko: そうですね。著作権の関係でポッドキャストでは歌詞をそのまま紹介できないんですけど、どんな事を歌っている歌なのか説明していただけますか？

Yuichi: わかりました。じゃ、ちょっと紹介してみます。ブログのなかに書いてあることと重なるところが多いかもしれないんですが、まあ、小包が親から届くんですね。中には、手袋が入っていると言うわけなんですけども。実はその手袋、お母さんが編んでくれたものなんです。で、その手紙にはお前もがんばれよ～って書いてある…って感じですかね。

Natsuko: なんか…ゆういちさん、もうちょっとしみじみした雰囲気だしましょうよー。

Yuichi: これ、心を込めて言うと悲しくなっちゃうんでね。

Natsuko: あ、そうですね。

Yuichi: なるべく、分かりやすいように。

Natsuko: そうですね。簡単に。

ご両親が住んでいるふるさとは、きつととても寒いところにあるんですね。で、恐らく、ご両親の手は寒さで荒れて、ぼろぼろになっちゃってると思うんですけど、それなのに、息子を気遣って、風が吹くとさむいだろうから・・・ってわざわざ手袋を作って送ってくれる。主人公はまだ10代の設定ですけど、実家をでて、一人で生活しています。親から手紙や小包が届いて、「あ～ありがたいなあ…心配させて申し訳ないなあ…」という気持ちを歌った歌なんですよ。

Yuichi: なつこさん、ありがとうございます。感動しました。ブログにも書いてあったように、この歌というのは本当に心の琴線に触れる歌詩ですね。

Natsuko: そうですね。「琴線にふれる」というのは「感動する」という意味です。

Yuichi: 日本の楽器の琴ってリスナーの皆さん分かりますかね？

Natsuko: あー、どうでしょう。すごく、伝統的な音楽で使われる楽器ですけど、英語だとzitherとかJapanese harp なんて言うんですかね。

Yuichi: その「琴の線」「琴の糸」を 人間の感情に例えているんですね。

なので、「琴線に触れる」というのは「感情に触れる」つまり「感動する」という意味なんです。

Natsuko: なるほど。ということで、今回は「冬」を連想させる歌「かあさんのうた」を紹介しましたが、ゆういちさんは、「冬」と聞いて思い浮かべる歌はありますか？

Yuichi: うーん。ま、ちょっと、このブログの趣旨とは離れてしまうかもしれないんですけど、ま、最近の歌で、「粉雪」とか。ご存知ですか？

Natsuko: あー。はいはい。あの・・・三年位前ですか？もうちょっと前かな？流行ったの。

Yuichi: もうちょっと前ですかね。

Natsuko: もうちょっと前ですか。失礼しました。

Yuichi: だけど、何十年前ということではなく、最近の歌ですね。あれを思い浮かべますね。なつこさんはどうですか。

Natsuko: そうですね。わたし、むしろ童謡で、「雪やコンコン」の歌とか、あと、「たき火」の歌とか。子供の頃歌ったそういう歌を思い出したりします。

Yuichi: なるほど。それは懐かしいですよ。

Natsuko: 懐かしい感じで。はい。

リスナーの皆さんはどうでしょうかね。

Yuichi: 冬を連想する歌はありますか？もしありましたら、是非教えてください。

Natsuko: それじゃ、また **Yuichi:** また次回。